

# 「反合」と「運動家」なる怒りの反撃！



82.10.2  
No. 1160

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
(鉄電)二九三五六・(公電)四五二二七〇七

速報  
大余2回

熱烈な討論を通じ、  
斗う方針と体制をうち固める(10/1)

動労千葉第7回定期大会2日目は、多くの傍聴者が結集する中、千葉グランドホテルにおいて8時30分より再開された。大会は真剣な全代議員の討論を通して、戦争と暗黒の道を狙う政府・自民党の反動攻勢が「三里塙」と「国鉄」をめぐって激動的決戦に突入している今こそ、「80年代に通用する自前の労働運動」の旗のもと「一人ひとりが活動家となつて反撃に決起することを満場一致で確認し、16時30分大成功のうちに終了した。

## 「運動方針」「予算」等、満場一致確認

擊の中心軸を最

オ2日目の議事は、「一九八二年度運動方針案」が吉岡組総部長より提案された後、来賓の挨拶をうけた。県交運を代表して、本吉県交運議長・國労千葉地本副委員長から、「政府・自民党は人事院勧告凍結につづいて、仲裁々定凍結へ動き出した。厳しい状況ですが、同じ車への仲間として一体となつて戻りましょ」とのあいさつを受けた。

ひき続き、水野副委員長より、「一九八二年度予算案の提案を受け、「運動方針案の質疑討論」に入ってしまった。

## 「反合」「三里塙」「中江選挙」等で熱心な討論

質疑討論は、9名の代議員から、各分野にわたる意見がだされ、執行部答弁もまじえ、終始活発に進められた。どの意見も、昨一年間を駆場として、真正面で闘いぬき、勝ちぬいてきた自信に満ちたものであった。骨子は、①・動労「本部」革マルの権力・国鉄当局一体となつた動労千葉組総破壊攻撃は、政府支配階級の反動攻勢のもとでより激化するであろうが、むしごこの対決を進んで勝ちとり、「三里塙」と「国鉄」の決戦を堂々と勝ちとつこう。国鉄労働者の三里塙への総決起「これが支配者共の攻

かせられた。

(1)「10・11三里塙現地闘争に総決起する決議案」＝提案者成田支部全代議員・佐倉支部全代議員・成田支部・日暮着代きな逆転をかちとつこいく道である。この大会の成功と10・11三里塙総決起の勝利と5・11反合の勝利は一体だ。

(2)「検修合理化粉碎における決議案」

も有利な点でうなづかされ、政府・国鉄当局とわれわれ労働者の力関係の大きな逆転をかちとつこいく道である。この大会の成功と10・11三里塙総決起の勝利と5・11反合の勝利は一体だ。

(3)「内連1号改悪」「仲裁々定凍結」「現協制度改悪」「5・11合理化」等々の攻撃の中で国鉄労働運動解体の攻撃が激化してきているが、具体的な反撃のポイントをどこに置いて戻つていくのか、について。

(4)右翼労戦「統一」攻撃・合理化反対、中江選挙闘争勝利にかけ、国労共闘の更なる強化、等について。

(5)当面する重要課題としての三里塙二期着工阻止闘争とジェット燃料輸送阻止闘争について。

(6)佐倉杵岡区の将来展望と、予科の見直しについて。

(7)事務駅場における「パンピーター化、見直し」による事務掛の削減について。

(8)「駅群はりつけ」と、高令者の駅場獲得の対策等について。

(9)「乗車証」問題について。であった。

討論の最後に、中野書記長の總括答弁代議員が主旨説明。

途中、忙しい中かけつけられた小川国彦衆院議員(二区)は、「三里塙を闘う動労千葉が、県下の労働運動をひきしめる中核となつて、今後とも戻りぬいて欲しい」と激励された。

討論の最後に、中野書記長の總括答弁を受けた。「敵が、『国鉄』と『三里塙』に的大敗を喫して最後の勝負に出たことは、一方では、我々の絶好のチャンスでもある。向う人民の側も最強の部隊を先頭に、広範な人民の大反撃を率いて、今秋から春へ、思ひっきりの反撃戦をくり返すときには、『10・11』を突破口で確認。大會は、「方針案」「予算案」「決議案」を満場一致で確認し、船橋市議選に立つ中江顧問の断固たる決意表明を圧倒的拍手で確認し、大会宣言「総合戦」が大ロード終了。